

2022年度【第11回】 四国地区社会福祉士合同研修会 「ソーシャルワークを紡ぐ」 ～一人ひとりが繋がりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現～

現在、少子化、核家族の進行により社会の形態は大きく変化しており、私たち社会福祉士も一つ分野や単独のアプローチでの課題解決が難しくなっています。また新型コロナウイルスが急激に拡大したことで、人々がつながりあい支えあいながら生活してきた従来の形態が極めて困難になり、孤立化が顕著に進んだり、社会的格差の問題が顕在化するようになったりと社会の課題も大きく変化してきています。私たち社会福祉士は、このような社会の変化にどう対応し、何を目指していくべきなのでしょうか。誰もが自らの意思が反映された生活を送ることが可能になるように、本人の最善の利益を考えながら支援していくにはどうしたら良いのでしょうか。社会の様々な分野で多様な人々や組織とつながりあいながら、多様性の尊重、権利擁護を意識して活動していくためには何が必要なのでしょうか。本研修会では、講演や様々な分野で活動しておられる実践報告を通じて、日頃からこれらの問題について対峙している私たちが、実践から学んだ「英知」を結集し今後のソーシャルワーク実践の展望について考える機会とします。一人一人の生活の質を高めていくために、人々がつながりを実践できるように、ソーシャルワークを紡いでいきましょう。

2022年（令和4年）12月10日（土）・11日（日）
場所：ホテルマリンパレスさぬき
（〒760-0066 香川県高松市福岡町2丁目3-4）
+ オンライン

対象：社会福祉士（四国地区以外も可）・社会福祉に関心のある方
定員：会場100名
（先着順、定員になり次第受付を終了します。）
：会場研究分科会各30名程度
（第1～第3希望により割り振ります。）
：オンライン全体会270名（Zoomを使用）
：オンライン分科会各90名
（第1～第3希望により割り振ります。）

参加費： 会場で参加 4,000円
オンラインで参加 3,000円
会員、非会員同額

※オンライン参加の場合、途中で通信状態が悪くなった場合や、途中退席した場合等いかなる場合も参加費の返金はできません。



12/10(土)

12:30～受付

13:45～15:15

〈基調講演「権利擁護としての意思決定支援」〉

毎日新聞客員編集委員、植草学園大学 副学長・教授

野澤 和弘 氏

※プロフィール詳細はこちらに掲載しています。
<http://www.kagawacsw.com>

15:30～17:00

シンポジスト

〈シンポジウム〉

- ・毎日新聞客員編集委員 野澤 和弘 氏
- ・香川県弁護士会 松本 タミ 氏
- ・香川県社会福祉士会 和泉とみ代 氏
- ・前香川社会福祉士会会長 岡崎 昌枝 氏

コーディネーター



1983年毎日新聞入社。いじめ、引きこもり、児童虐待などを報道する。論説委員（社会保障担当）を11年間務め、現在、社会保障審議会障害者部会委員、障害者政策委員会委員などを務める。主な著書に「条例のある街」（ぶどう社）、「あの夜、君が泣いたわけ」など多数。